

令和6年度 第2回 静岡市総合教育会議 会議録
(委員等の発言の要点を箇条書きでまとめています)

日時:令和6年8月22日(木)
午後3時30分～午後5時00分
場所:静岡市役所静岡庁舎
新館8階 市長公室

1 開会

【難波市長挨拶】

- ・教育大綱について、これまで3回、教育委員の皆様と意見交換を重ねてきたが、最後の大詰めに来ている。
- ・パブリックコメントも実施したが、色々な意見を伺い、中身を改善し最終案を作っていきたい。
- ・教育大綱を策定して終わりにならないよう、いかに実践していくかということが極めて重要。
- ・教育委員会だけでなく、市全体そして社会全体として取り組んでいくものになるため、そういう面から今一度ご覧いただき、ご意見を頂戴したい。

【赤堀教育長挨拶】

- ・第2回総合教育会議の開催に向けて、教育大綱については様々な市民の方から多くのご意見を頂戴した。パブリックコメントはもちろんだが、中学生、高校生にも、ワークショップ方式で色々なご意見をいただき、教育について考えていただいた。それは非常に大切なことだと思っている。
- ・この教育大綱は、これからの行政運営の拠りどころになるが、市民の皆さん1人1人にとっての幸せな生活を作り上げる拠りどころでもあると思っている。この教育大綱を、私たち行政はもちろんだが、市民の皆さんにも、自分事として捉えていただき、理解していただく、そんな努力をこれからもしていかなければならないと改めて感じている。

2 議題

静岡市教育大綱の策定

【説明】

(企画課長)

- ・今後のスケジュールについては、今回の会議をもって、教育大綱の策定に向けた市長と教育委員による協議・調整は終了とさせていただく。本日、市長と教育委員からいただいた意見の反映、その他文言等の軽微な修正をしたあと、9月に、市長が教育大綱の策定・公表する予定である。
- ・[資料1-1](#)、[資料1-2](#)、[資料2](#)により、「静岡市教育大綱の策定に向けたパブリックコメントの実施結果」及び「教育大綱への反映状況」について説明

(教育総務課長)

- ・資料1-1、資料1-3、資料2により、「ワークショップの実施結果」及び「教育大綱への反映状況」について説明

【意見交換】

(井上委員)

- ・中高生のワークショップを見学させていただいたため、感想も含めてお伝えしたい。
- ・子どもたちは自分の意見を言いたいし、自分の声を聞いてほしいと思っている。また、ワークショップの中で出てきた意見だと、実際に体験したり、地域や企業と交流したりしたいと考えていることがとても伝わってきた。特に印象に残ったのは、多くの子どもたちが最後の感想の場で、ワークショップのような対話の場がもっと増えてほしいと話していたこと。日常生活の中で、自分の意見を言うような機会がそこまで多くはないのではないかとこのことを率直に感じた。
- ・「自分の意見を否定されることなく聞いてもらえるような環境」がすごく重要なのではないかと感じている。こども基本法の第11条で、行政が子どもに関する施策を作るときは、子どもの意見も聞いてくださいねということが明記されているが、施策の策定だけでなく、日常の学校生活の中でも対話を大切に、主体的・対話的な学びを実現していくことがとても重要ではないかと感じた。
- ・ワークショップで色々な意見が出てきて、それらの(教育大綱への)反映状況についてはご説明いただいたが、参加してくれた子どもたちに対するフィードバックについてもご検討いただきたい。意見を言いつけだけではなく、パブコメ同様に、皆さんからいただいた意見をこう反映したんだよと伝えていただくこともとても重要だと思う。
- ・子どもをど真ん中に、子どもの参画を促していくということであれば、意見を聞くだけでなく、きちんと行政として、これは取り組めること、これは取り組めないことというのを、1人の人権を持った子どもたちということで、返していくことがとても重要だと感じる。

(永松委員)

- ・ワークショップの意見の中で、職業体験を求めるという声が高校生からも中学生からも出ていたかと思う。
- ・私自身もよくお声がけいただいて、職業講話や授業をやらせていただく機会があるが、地域で働く企業人としても、次世代の育成のために、子どもたちに、もっと積極的に企業は関わらべきだと思う。
- ・教育大綱の基本方針の取り組みを具体化する中、企業の参画、学校への関わりというものを検討いただいて、ぜひ実践していただけたらと思う。
- ・資料2の2ページ目、教育大綱の基本理念の中でも、「1人1人が心豊かで幸せを感じられる人生を送ることができる」と記されているように、幸せや幸福感という言葉がたくさん出てくるが、はたして幸せってなんだろうととても考えさせられた。
- ・もちろん何をもちって幸福と思うか、幸せと思うかについては、各々の感じ方で色々である。
- ・幸せを感じるためにはどうすれば良いかを考えてみた。精神論的なものになってしまうが、

実はすごくシンプルで、自分の人生を自分で選択する、自分で選ぶということが1番大切ではないかと思う。他の人に言われて、大学を選ぶとか、会社を選ぶとか、他責してしまうことが1番不幸なこと。

- ・自分で選択する、自分で責任を取るということを、これからの子どもたちにきちんと教えていくことが、大人の役目ではないか。それが自己肯定感を高めること、幸福感を感じることに繋がるのではないかと思う。
- ・また、レジリエンス、回復する力もとても大事ではないかと思う。この間も南海トラフの話もあったが、自然災害など、人の不可抗力でどうにもしようがない事象が発生した時に、子どもたちも大きな影響を受ける。そうなったときの心の持っていく方を、これから考えておく必要があるのではないか。今後の施策を考えるときに、そういったことも含めてご検討いただきたい。

(佐野委員)

- ・ワークショップの子どもたちの議論が素晴らしいと思った。特に、コミュニケーションの重要性を理解されているところ。パソコンやスマホなどが重宝がられている時代に、人と人の触れ合いであるとか、そういったことをとても大事に考えているところが非常にいいなと思った。
- ・教育大綱に反映しているところもあるため、このワークショップは有意義であったと感じた。また、教育全般に関するご意見をたくさんいただき、身が引き締まる思いがした。
- ・この教育大綱の中で、グローバルの視点があっても良いのではないか。資料2の7ページ、基本方針4の「新たな時代に活躍する多様な才能・能力を伸ばす」のところでも結構だが、その視点がこのあたりに入ってくるともう少し幅が広がるのではないか。

(松村委員)

- ・ワークショップでの中高生の意見となると、中学校・高校の代表としての意見として捉えられやすい。子どもたちの人選はどのように行ったか。

(教育総務課長)

- ・中学校は、葵区、駿河区、清水区の学校に個別に依頼した。高校は、市立の2つの高校に依頼した。

(松村委員)

- ・急な開催であったため時間的な問題だろうが、ワークショップとして高校生の意見を聞くとしたら、100以上高校があって、私立は50校以上あるため、ある程度の学生から意見を聞かないと、一般的な意見として出すのは難しいのでは。
- ・まとめとしての教育大綱としては基本的に網羅できていないのではないかと感じている。
- ・ただ、問題として大事なのは、人が足りていないということ。教員だけの問題ではないのだろうが、たとえば、小学校・中学校の先生方だと、授業が週22、23時間だと聞いている。準備の時間も考えると他のことが一切できない状況。
- ・1人あたりの授業を減らすことが絶対課題である。

・教育大綱については、総合的には分かる文章になってきた。漢字の使い方については、事務局からの説明にもあったが、「探究」の「きゅう」の字が、「求」ではなく「究」であることなど、そういうところはとても大事。知識と学力は別のもの。現在、混在してしまっている。そういうところも研究してもらえると嬉しい。

(黒川委員)

- ・教育大綱の基本方針1(資料2)の14ページ)に、パブリックコメントを踏まえて、性的マイノリティを追記したということだったが、加えるべき内容だと思う。
- ・そのあとの「それぞれの多様性を認め、他者の考えや価値観を思いやることのできる教育環境を」という部分については、教育大綱であるため、この文章の中では「教育環境」とすることは適切だと思うが、性的マイノリティの方の存在がだんだん認められる社会になってきていると思う一方で、文化的に思いやっていくことと、制度として形を作っていくことが別問題として、まだ日本では追いついていないのではという印象を受けている。
- ・学校生活の中でマイノリティの子どもが受け入れられているかと問われたならば、ほとんどの方がそういった場面に直面したことがないか、そういう文化がなく概念としては存在するんだけどそれぞれ自体が実生活の中に則したものになっていないかではないかと思う。
- ・静岡県でも、パートナーシップ宣誓制度等があるが、そういったものを知っている市民の方も少ないと思うし、どうやって教育環境の中で取り組んでいくのか、思っている以上に実施していくことは大変なことだと思う。どのように具体化していくのか興味がある。理念として掲げることは簡単だと思うが、それをどのように実践していくかということ、これを機に考えていけるような教育大綱になると良い。市民に問いかけていけると良い。
- ・資料2)の9ページ、基本方針6にもあるとおり、人手不足は静岡市の教育現場の最も大きな課題の1つになっていると思うが、最後の方にある「外部人材の活用など地域の多様な資源を学校教育や保育の現場に取り入れること」が1つの解決策として掲げられている。単純に学校現場の中に外部の方に来てもらって手伝ってもらうことよりも、地域には色々な力があると思うため、民間と協力していくということを積極的に行っていくことが本当に必要なのではないか。
- ・それは、先程、他の委員の方からも出たような企業とのキャリア教育等の連携もそうだし、不登校対策や外国人にルーツがある子どもの支援等を学校の中だけではなく、外の力を借りながら取り組んでほしい。

(教育長)

- ・教育大綱を通して、行政と市民、市民と市民、企業と市民など様々な関係者がつながることが大事である。コミュニケーションがキーワードになってくると改めて感じた。

(市長)

- ・反省点であるが、資料1-2)について、いただいたご意見に対して、今後の取組の参考とさせていただきますとだけ回答しているところがあるが、今後の検討の参考とは、いったい何をどこでだれが検討するのかも分からない。回答をもう1回見直したい。

(井上委員)

- ・先程のワークショップの件につながるが、今回、子どもの声を聞いていただいたことはとても重要だと思う。一方で、声なき声をどう拾っていくのが今後の課題だと思う。
- ・今回ワークショップに参加してくれた子どもたちは、おそらく自分の意見を言える、自分の意見を持った子どもたちだったと思うが、よく本当に困っている子どもの声は聞けないと言われる。不登校はもちろんだが、様々な生きづらさを抱えている子どもたちの声にいかにか耳を傾けていくことが重要である。まさにパブリックコメントでも、不登校の子どもたちの意見も聞いてくださいとあったり、資料2の4ページ、基本方針1「誰一人取り残されず、全ての人の可能性が引き出される」と掲げていたりするように、当事者の声はもしかするとなかなか聞きけないかもしれないが、保護者であったり、支援者であったり、なるべく当事者に近い声を聞き、どのように反映していくか今後取り組んでいきたい。

(市長)

- ・普段子どもたちはあまり意見を言えていないのか。

(北川調整監)

- ・今回の教育大綱でワークショップを実施したが、昨年度の12月から1月にかけて、静岡市の学校をどうしていきたいか、子どもたちの声を聞く機会を設けた。そこでも、学校をこう変えてほしい、先生にはこうであってほしいなど、非常に多くの意見をいただいた。教育委員会としてもそれらの意見を施策にどう反映していくか取り組んでいるところ。こういった機会はこれからも大切にしていきたい。

(松村委員)

- ・教育行政と教育は全く違う。今の回答は、教育行政としてどのように取り組んでいくかといった、行政として考えなければいけないこと。ワークショップ等でいただいた意見をどう周知して、どう反映していくかを説明したり、文章化したりすることは行政のやることである。
- ・教員としては、教える側があらゆることに興味がぱっと湧くかという、その人の人間性、深みが全て教育に絡んでくる。
- ・行政として、どのように周知するか、どうやって賛同を得るかにポイントをおいて教育大綱等を作らないと、言葉遣いがおかしかったり、相手に伝わらない文章になってしまったりする。

(市長)

- ・先程、文化と制度という話があったが、制度はどちらかというと行政が作る場所。教育行政が制度を作り、教育自身も文化の1つかもしれないが、その制度の上でそれぞれが取り組んでいく。
- ・教育行政と教育が違うというのはもちろんかなと思う。
- ・それから、ものの見方も人それぞれ。みんな同じように見えていると思いがちだが、全く見方が違っている。

(教育長)

・働き方改革を進めていかなければならないと思っている。それは市長も強く思っていて、色々とお考えやご支援をいただいているところであるが、まだ月45時間以上の時間外勤務を行っている教員が4分の1ほどいる。それを0にしていかなければいけない。様々な施策を考えなければいけないと思っている。

(市長)

・教科担任制などできることはたくさんあると思う。

(松村委員)

・教科担任制の小学校での導入は法律上できないのか。

(教職員課長)

・法律上できない訳ではない。

(松村委員)

・小学校でも教科担任制を導入すると先生方はずいぶん楽になるのでは。
・部活動の指導を頑張りたいという先生方もいる。そういった先生方も時間外勤務をやってはいけないというのは、それはよく検討する必要がある。事務仕事に時間がとられて残業が多くなっているという場合は改善すべき。
・どちらにせよ人を増やす必要はある。人件費をどうするか真剣に考えないといけない。

(黒川委員)

・教育大綱の中でいう教育とはそもそも何なのかと改めて考えさせられている。[資料2](#)の1ページ目、策定背景にも「社会や時代が大きく変化する中、目指す社会の姿についても、一人ひとりの幸福感を高めていくことや、…」と記されているとおり、学校教育はとても長い間、同じ視点、同じ使命でやってきたと思うが、社会が変わっていく中で学校も大きく変わっていく時が来ているのでは。
・もともとあるものをなくせということではなく、社会の変化に対応していくような教育を考えていく必要がある。「教育」と「学校教育」は1つの分野であって必ずしも同じことを目指す訳ではない。それでは学校教育とは何か、ということをもう一度よく考えていきたい。
・教育大綱の中で、「学校教育」と「義務教育」という言葉が混ざっているところがある。どういう意味で使い分けているか。それぞれ何を示しているか。
・学校教育の中で、その教科の授業をやるということはもちろん基本的なところだと思うが、主体性を身に付ける、対話をもとにする教育は、知識や学力などをつけていく教育とはまた違ってくるのでは。
・遠足など外での経験の中でも、おそらく主体性を身に付ける場面がたくさんある。主体性は、単純にディスカッションだけではなく、そういった経験を経て身につけていくものではないか。そういう経験を増やしていけるのはやはり学校の強みだと思うため、学校での教育というものを今後も考えていきたい。

(市長)

- ・これまで、静岡市教育委員会が策定した静岡市教育振興基本計画を教育大綱として取り扱っていた。
- ・資料2の1ページ目、策定背景の2段落目であるが、教育振興基本計画の対象範囲は、こども園から高等学校までで大学も入っていない。それを教育大綱にしてはいけないだろう。学校教育は教育の中の主要な部分だが、あくまで一部。そこを改めて認識した上で、より広い範囲の教育を考え、教育大綱を作りましょうと。
- ・その上でも学校教育はかなりの範囲を占めていると思う。

(松村委員)

- ・先程話に出てきた学力と知識についてであるが、学力は評価の対象になりうるが、知識は各々が蓄えたものであるため評価するものではないと考える。知識欲のある人に、最終的に教養が備わってくる。知識欲のない人には教養はつかない。学力は、基本的には問題にする必要はないと思っている。
- ・教育大綱を文章化するときは、漢字の使い分け、意味をきちっと考える必要がある。学力と知識を混在して使わないでいただきたい。

(市長)

- ・まだ文章や言葉のつかい方を練れていないところがあるため、さらに細かく見て変えていきたい。この言葉遣いは良くないだろうという教育大綱を作らないようにしたい。徹底的に細かく事務局として見ていく。また、お気づきの点がありましたらお知らせいただきたい。

(佐野委員)

- ・資料2の4ページ目、性的マイノリティというところで、学校にもトランスジェンダーの方がいるのだろうが、学校訪問をした際に、大人が考えるほど子どもたちは違和感を感じていないというお話を伺った。
- ・制服についても、男女関係なくブラウスやズボンなど各自で選択し着用している。
- ・トランスジェンダーの方々に対して学校ではどういう取組をしているか。

(調整監)

- ・教育委員会としては、子どもたちが主体的に、主体的がキーワードになってくるが、学校を作っていくということで、子どもたち自身が学校のルールメイキングをしていこうと数年前から取り組んでいる。
- ・校則の改革を行う中で、制服の見直しにも着手している学校がある。委員ご指摘のとおり、各自で選択し着用しているが、違和感なく過ごせている。トランスジェンダーの子どもがどの程度の割合でいるかなどは陰に隠れている部分もあるが、環境的には進んできている。

(佐野委員)

- ・徐々にあまり意識しないようになってきているのかなと思う。それをどう助け、見守っていくかが大切だと思う。

(市長)

- ・社会全体として、特に子どもたちは、多様性が出てくるのではないか。
- ・また、意識が高い子どもが多い。小学生や中学生から、表彰受けました、こういう活動しましたという報告を受ける機会があるが、小学生も社会活動に一生懸命取り組んでいる。社会は変わってきているなど実感している。

(市長)

- ・教育大綱案の議論は、総合教育会議ではここまでということにさせていただきたい。
- ・本日色々貴重なご意見いただいたため、改めてその視点や意見を踏まえて見直しをしたい。
- ・改めて最終案をお送りしてご意見を頂戴したいと思う。

3 閉 会

(事務局連絡)

- ・次回の総合教育会議は、年度内の開催を予定している。開催時期及び議題については決まり次第お知らせする。